

2020年・被爆75年へ：非核・平和の日本、核兵器のない世界のために共同し、ともに歩こう

来年、2020年は広島・長崎の被爆から75年を迎えます。国連は2年前の2017年7月、核兵器を全面的に禁止する「核兵器禁止条約」を採択し、いま多くの国が市民の運動と協力し、条約発効へと動いています。昨年暮れの国連総会では、禁止条約に賛成の国が加盟国の3分の2にのびりました。

アジアと世界の緊張の火種となっていた朝鮮半島でも、南北首脳会談、米朝首脳会談をへて非核化と平和体制の構築へと、一步一步、歩みが続いています。戦争でなく平和を！核兵器の廃絶を！とのたゆみない運動と世論の力が、歴史を動かしています。

日本は、人類の歴史でただ一つ、核兵器の惨禍を国民が体験した国です。その被爆者の体験と原水爆禁止の国民的運動が、核兵器の禁止・廃絶へと世界を動かしてきました。

核保有国は、禁止条約に反対し続けています。日本政府もまた、「核の傘」の名でアメリカの核兵器に依存する態度をとっています。しかし「安全のために核兵器が必要」などという理屈を受け入れれば、世界は核兵器だらけになってしまうでしょう。

1958年以来、日本国民の声を一つに結び、原水爆禁止世界大会に届けてきた国民平和大行進が、いま、大きな役割を果たすときです。行進が全国を歩く今年前半は、統一地方選挙、そして参議院選挙が行われます。非核平和の国民の声を政治に届け、反映させるチャンスでもあります。

2019年国民平和大行進の目標は：

－ 2020年・被爆75年にむかって、核兵器全面禁止・廃絶を！の声を全国すべての市区町村に広げ、広島・長崎へ、そして世界に届けます。全市町村での行進、すべての自治体の訪問、「ヒバクシャ国際署名」の普及をめざします。地方議会では、日本政府に核兵器禁止条約への参加を求める意見書の採択を呼びかけます。

行進は、原水爆禁止に賛成するすべての人々に開かれたものであり、すべての地域で、共同・協力の発展をめざします。

－ 「生きているうちに核兵器の廃絶を」との被爆者の願いを共有し、被爆者ととともに歩きます。また、被爆者への国家補償による援護を求め、被爆体験の普及、被爆写真展、被爆者援護・連帯募金など、被爆者と連帯して行動します。

－ 憲法の原則を踏みにじった戦争準備や大軍拡に反対し、立憲主義と憲法9条を守る運動に連帯します。沖縄・辺野古での住民無視の新基地建設即時中止、普天間基地撤去の運動に連帯します。

東電福島第一原発事故の被災者への完全な補償を求め、放射能被害をもたらすすべての原発の廃炉、自然エネルギーへの転換を求めます。

－ 核兵器のない世界は青年の未来を約束するものです。すべてのコースへの青年の参加を呼びかけ、計画されている国際青年リレー行進の成功をめざします。

1、日程・コース

① 全国11幹線コース〔北海道→東京（4コース）、東京→広島、富山→広島、和歌山→広島、四国→広島、広島→長崎、宮崎→長崎、沖縄→長崎〕で実施します。出発日は、5月6日（月祝）東京→広島コース（夢の島）。同日、北海道→東京コース（礼文島）、同日、四国コース（愛

媛から香川、愛媛から高知へ。6月2日徳島終結) ※原水爆禁止四国大会(6月15、16日愛媛での開催後に岡山に引き継ぎ)。5月7日(火)和歌山→広島コース(橋本市)。6月6日(木)富山→広島コース(朝日町)。6月16日(日)沖縄→長崎コース(沖縄・名護市)。6月23日(日)宮崎→長崎コース(えびの市)。7月5日(金)広島→長崎コース(平和公園)。

② 終結日は、東京=7月24日(水)、長崎=8月6日(火)。

③ 全自治体を網羅する網の目平和行進をめざします。

2、主 催

提唱=原水爆禁止世界大会実行委員会

主催=2019年原水爆禁止国民平和行進中央実行委員会

3、名 称

2019年原水爆禁止国民平和行進

4、共通スローガン： 核兵器のない平和で公正な世界を実現しよう

◇ 核兵器のない世界を実現しよう！

原水爆を禁止しよう！

すべての核保有国は、禁止条約に調印せよ！

日本政府は、禁止条約に調印せよ！ ただちに調印せよ！

◇ 非核平和のアジアを実現しよう！

朝鮮半島の非核化と平和を支援しよう！

日本政府は、憲法の平和外交を実行せよ！

アメリカ言いなりの大軍拡反対！

(F35はいらない、空母はいらない、迎撃ミサイルはいらない、オスプレイはいらない)

軍拡のための消費税増税反対！

9条改憲反対！ 憲法をまもれ！

◇ 沖縄県民と連帯しよう！

政府は、沖縄県民の意思を尊重せよ！

名護・辺野古の新基地建設はただちに中止！

普天間基地を撤去せよ！

◇ 原発再稼働反対！原発ゼロを実現しよう！

政府はエネルギー政策の転換を！自然エネルギーに転換を！

政府・東電は、事故被害を補償せよ！福島を忘れない！

◇ 原水爆禁止 2019年世界大会を成功させよう！

核兵器のない世界のために広島、長崎へ、ともに歩こう

ノーモア・ヒロシマ、ノーモア・ナガサキ、

ノーモア・ビキニ、ノーモア・ヒバクシャ、ノーモア・ウォー

5、具体的とりくみ

① 2020年（被爆75年）を展望し、核兵器廃絶の世論を圧倒的に広げる

- ・被爆者が呼びかけたすみやかな核兵器廃絶を願い、核兵器を禁止し、廃絶する条約を結ぶことをすべての国に求める「ヒバクシャ国際署名」に取り組みましょう。
- ・被爆者の証言や被爆の実相を学び、核兵器禁止・廃絶にむけた情勢を学ぶ機会をつくりましょう。世界大会学習パンフレットを活用しましょう。
- ・原爆パネルや被爆展示組写真、高校生の描いた原爆の絵などを使った取り組みを全自治体で取り組みましょう。

② すべての自治体を訪問し、全自治体との共同をひろげる

- ・被爆者とともに、すべての自治体を訪問して情勢の新たな変化を伝えましょう。
- ・「ヒバクシャ国際署名」への自治体ぐるみの協力、原水爆禁止世界大会への賛同・参加を求めましょう。
- ・広島・長崎原爆被害展示組写真の購入と「原爆と人間」展の開催など非核平和行政の拡充・具体化を要請しましょう。
- ・日本政府に核兵器禁止条約への調印・批准を求める意見書決議を要請しましょう。

③ 核兵器廃絶に賛同するすべての政党・会派と市民との共同・連帯を

- ・核兵器廃絶に賛同するすべての政党・会派、幅広い市民（団体・個人）、自治体関係者に、平和行進の出発・集結集会で連帯のあいさつ、行進に参加してもらおうよう働きかけましょう。

④ 被爆者と日本の青年らを先頭に

- ・あらゆる繋がりをいかして青年に実行委員会や行進への参加を積極的に呼びかけましょう。
- ・平和行進「キックオフ集会」や学習企画など、交流できる機会をつくりましょう。
- ・全てのコースに「国際青年リレー行進者（国内外の青年）」の配置を呼びかけます。

⑤ SNSをはじめ、広範な市民への情報発信、マスコミ対策の重視など

- ・地域単位でのチラシの作成と普及。共同する自治体への宣伝の働きかけをしましょう。
- ・団体独自の宣伝（なぜ行進に参加するのかの意義も含め）の強化をお願いします。
- ・マスコミ対策を中央、県、地域それぞれで重視し徹底しましょう。
- ・SNSのつながり（平和行進 facebook ページ、ツイッター、HP など）を活かせる方には、青年層にも情報を発信、交流できるようお願いします。

⑥ 行進参加者の健康・安全を第一に

- ・参加者の健康に配慮した時間帯の行進を設定するなど、各地の実行委員会で議論をお願いします。
- ・荒天時は、天気予報で警報が発令された場合は速やかに中止することや、注意報の場合も、参加者の安全を第一に考えて中止の検討をお願いします。

⑦ アピールを高める行進資材の活用と財政基盤の強化を

- ・行進事務局作成の行進資材を活用しましょう。行進を支える財政基盤の強化をはかりましょう。
- ・これまで多くの団体、都道府県で活用され、中央・県実行委員会の財政を支えてきた行進ペナ

ントを普及しましょう。

- ・共感を持つアピールの仕方、わかりやすいメッセージ、地域性、参加者の取り柄を活かした方法で取り組む側も元気が出るような創意工夫を行いましょ。

⑧ 団体リレー旗と行進ペナントの取り扱いについて

【リレー旗について】

・ 昨年の取り組みのもとに、団体のリレー旗を積極的に出すことをよびかけ、(1) メッセージの入った旗やのぼりなど、沿道にアピールすること、(2) リレー旗とのぼりをいっしょに収納できるカバンを活用すること、(3) 参加する団体にはそのカバンを含め、扱いに困らないものを活用することなど、団体リレー旗とペナントについての「取扱い要項」と申込書を別途作成します。

【行進ペナントについて】

・ 基本的に、行進ペナントは自治体や加盟団体、個人など、平和行進（世界大会）に賛同された方にご購入いただき、名前、メッセージを書いていただいたものは都道府県実行委員会を通じて被爆地（世界大会開催地）に届けられます。核廃絶の願いを託していただくとともに、平和行進の成功を支える募金にもなっています。

・ 行進ペナントはリレーしません。のぼりや横断幕に結ぶことで出し入れの際に竿に絡まるなどについては、各都道府県実行委員会は「ペナント棒」（仮称）などを用意するなど各県で工夫をしてください。各団体は各都道府県実行委員会の指示に従うようにしてください。

・ 引き続き団体のぼりに結ばれる場合は、ポール、のぼりとともに収納する手提げ袋に入れるなどし、管理するようお願いします。

6、通し行進者の募集

「歩く」ことで訴えることを基本としながら、地域のみなさんの努力を尊重し、共同の行進を求めます。都道府県内の通し行進者・県内リレー行進者を積極的に配置し、行進を盛り上げましょう。※全国通し行進者の募集は別途、定めます。

7、財 政

- ① 中央実行委員会の財政は、基本的に中央団体の参加分担金、協力金、都道府県実行委員会の協力金および事業活動などで運営します。
- ② 都道府県実行委員会、市区町村実行委員会の財政は、基本的に参加団体の分担金、協力金、自治体募金、沿道募金、事業活動などで運営します。
- ③ 国際青年リレー行進者支援の募金（100万円目標）を全国で取り組みましょう。

8、行進実行委員会の機構

実行委員会の機構として、①総会、②代表委員、③事務局団体、④会計監査団体を設けます。全国的な経験交流を目的として、年内に総括会議を、総会と結んで都道府県代表者会議を開催します。※別途、定めます。

以上